平成21年３月　vol. 13

いわき市立総合磐城共立病院

地域医療連携室だより

～ 市立病院の事務長は腰掛け事務長？ ～

いわき市立総合磐城共立病院　事務管理部長　氏　家　廣　仲

＜縁あって２度目＞

平成19年４月、事務管理部長（事務長）を命じられ、２度目の病院の仕事をすることになりましたが、早２年が経とうとしています。

表題のごとく、もとより浅学非才の身としては、何を書けば良いのか思い悩みました。

私事にわたることで恐縮ですが、経歴の一端と日々どのように仕事に向き合っているか述べさせていただきます。

＜厚生年金が１年＞

昭和43年３月、工業高校機械科を卒業後、当時は東京都北区にあった大手製紙会社に就職、三交替制の製造部原料課に配属され、「原価」の重要性を叩き込まれました。

抄紙機等の整備点検業務への配属を望みましたが、適わず、満たされない思いを強くし、進学を理由に辞職しました。

＜市職員生活＞

昭和46年3月、短大商経科を卒業後、一時は銀行勤務を考えたこともありましたが、初級職として市職員生活をスタートさせました。

以来38年。財政（税・財政）14年３ヵ月、都市建設（公園緑地・土地調整）８年９ヵ月、病院７年、議会６年、保健福祉（国保）２年と業務に当たってきました。

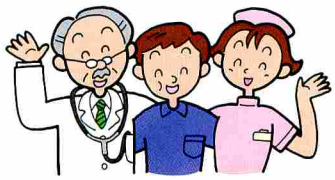
その時々の課題や業務に前向きに取り組んだと自負していますので、定年退職時には「やれることはやった」と言えそうです。

＜１度目の病院＞

平成５年から４年間、市立病院課の経営企画係長を務め、好間病院の廃止～民間医療機関への引継ぎ～後処理に関わりました。

当時の好間病院は、病床数が64床、累積欠損金が約10億円、借入金は約５億円という状況でした。

好間病院の存廃に係る２人の上司の意見は、「１人でも患者がいれば廃止できない」、一方は「職



【いわき市立総合磐城共立病院　地域医療連携室】
電　話　0246（26）2250（直通）　ＦＡＸ 0246（26）2119
ＵＲＬ　http://www.iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp
E-mail　kyoritsu@iwaki-kyoritsu.iwaki.fukushima.jp

員の労働意欲を喚起しても採算的経営の達成は不可能なので廃止」と２分されていました。これでは係長として動きがとれません。「どちらでも良いからはっきりしろ」と思わず怒鳴ってしまいました。それほど真剣に対応しようとしていたのです。後から尊敬している上司に窘められましたので、それ以来、声を荒げることはしないようにしています。

病院廃止決定後は、毎夜、地元の方々に説明し理解を求めて歩きましたが、無責任にも市職員の中から「むしろ旗が立つぞ」などと脅かされたことを記憶しています。

＜市立病院の事務長は腰掛け事務長？＞

市立病院の人事異動は、本人が望んでいようといまいと定期的な人事によって、たまたま事務長に赴任します。

こういった場合は、一般的に病院に対する愛着とか病院管理への興味など、病院に対する意識が低いと言われています。もともとの仕事が病院ではないところから始まっており、大過なく勤めあげて１日も早く元の職場に帰れることを望んでいる姿となって表れてしまうのかも知れません。

先日、11種類目の資格となる２級医療技能審査試験（医科）に挑戦し、資格を取得しました。動機は、事務長として病院収入の根幹をなす診療報酬の知識がなくてはまずいと思い立ったからです。今後も率先垂範していきます。

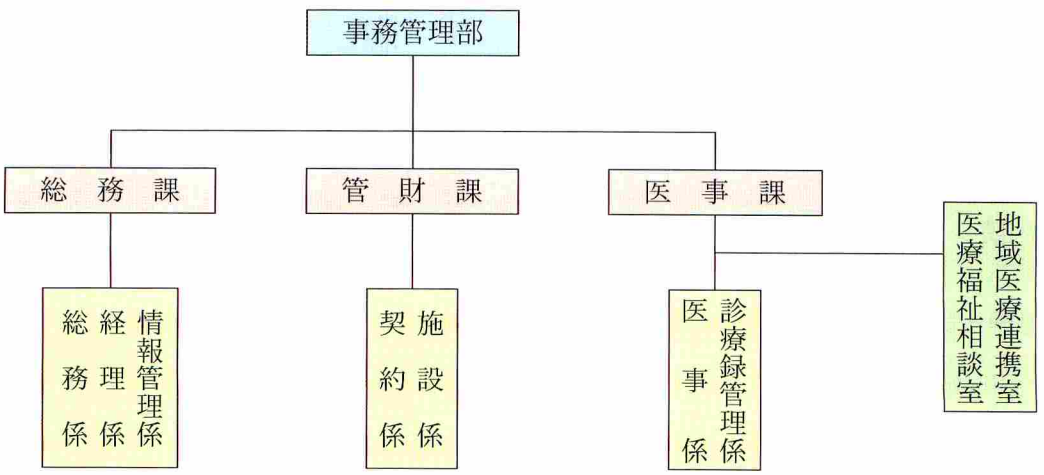
＜医療連携＞

市立病院を取り巻く環境はますます厳しさを増し、激動の時代を迎えていると言っても過言ではありません。

市立病院改革プラン作成、医師・看護師等の招聘、勤務医の過重労働の改善、救急医療体制の整備、高コスト対策、未収金対策、院内暴力対策など多くの課題が山積しています。

これらを事務面から１つ１つ解決し、真に市民に信頼される市立病院を目指していきたいと考えていますので、連携医療機関の皆様の御協力と御支援をお願いします。

事務管理部　組織図　平成21年３月１日現在



診療科紹介

小　児　外　科

小児外科
中　村　　潤

■ 沿革

当科は福島県浜通り～茨城県々北地域で唯一、福島県内でも医大附属病院（福島市）と太田西ノ内病院（郡山市）を含むわずか3施設にしかない小児外科専門診療科です。1980年11月発刊の当院『三十年史』によれば、30年前の1978年12月1日に開設され、当初は常勤医1名でスタートしました。その後、時代の趨勢とともに需要が増えたため1985年1月から2～3名体制となり、現在は東北大学小児外科出身の専門医2名が外来と病棟の診療にあたっています。

■ 診療内容

小児外科は、脳外科・心臓血管外科・整形外科・形成外科・眼科・耳鼻科・歯科の各領域を除く15歳以下の小児の外科的疾患を対象とする診療科です。当科ではそけいヘルニアと急性虫垂炎で全症例の約半数を占めますが、このほかにも未熟児・新生児・乳幼児を問わず消化器・呼吸器・泌尿器など多臓器にわたる疾患の診察や種々の検査・手術を行っています。なお、2名の常勤医でこれら全てをカバーすることは困難なため、院内では産婦人科・未熟児新生児科・小児科などの関連各科と、また院外では大学病院やこども病院などのより高次の専門施設と連携し、最新かつ最良の医療を患児が受けられるよう配慮しています。

■ 対象とするおもな疾患

症　　状	考えられる疾患
体表や皮下の腫瘤	甲状舌管嚢胞（正中頚嚢胞）、側頚嚢胞、鰓原性嚢胞、皮様嚢腫、類表皮嚢胞、リンパ節炎、石灰化上皮腫、リンパ管腫、血管腫、脂肪腫
耳介周囲の異常	副耳、先天性耳瘻孔
前胸部の陥凹	漏斗胸
ミルク嘔吐	胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、胃軸捻転
黄疸や灰白便	胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症
臍の膨隆	臍ヘルニア（いわゆる「出べそ」）
臍の発赤や湿潤	臍肉芽腫、臍腸管遺残、尿膜管遺残
便秘	ヒルシュスプルング病、慢性便秘症
血便	腸重積症、メッケル憩室、腸管ポリープ
肛門出血	裂肛、痔核
肛門の形や位置の異常	直腸肛門奇形（鎖肛）
肛門周囲の発赤、腫脹、排膿	肛門周囲膿瘍（痔瘻）
そけい部の膨隆や陰嚢の無痛性腫大	そけいヘルニア（いわゆる「脱腸」）、陰嚢水腫
陰嚢の空虚	停留精巣、移動性精巣、精巣萎縮・消失
陰嚢の発赤、有痛性腫大	精巣上体炎、精巣捻転、精巣垂捻転
外尿道口の異常	尿道下裂、傍外尿道口嚢胞
包皮の翻転不能、発赤	包茎、包皮炎
その他	新生児外科疾患（先天性食道閉鎖症 、先天性横隔膜ヘルニア、臍帯ヘルニア、腹壁破裂、先天性腸閉鎖・狭窄症、腸回転異常症、新生児穿孔性腹膜炎、仙尾部奇形腫など）、急性虫垂炎、卵巣嚢腫、胸部・腹部外傷など

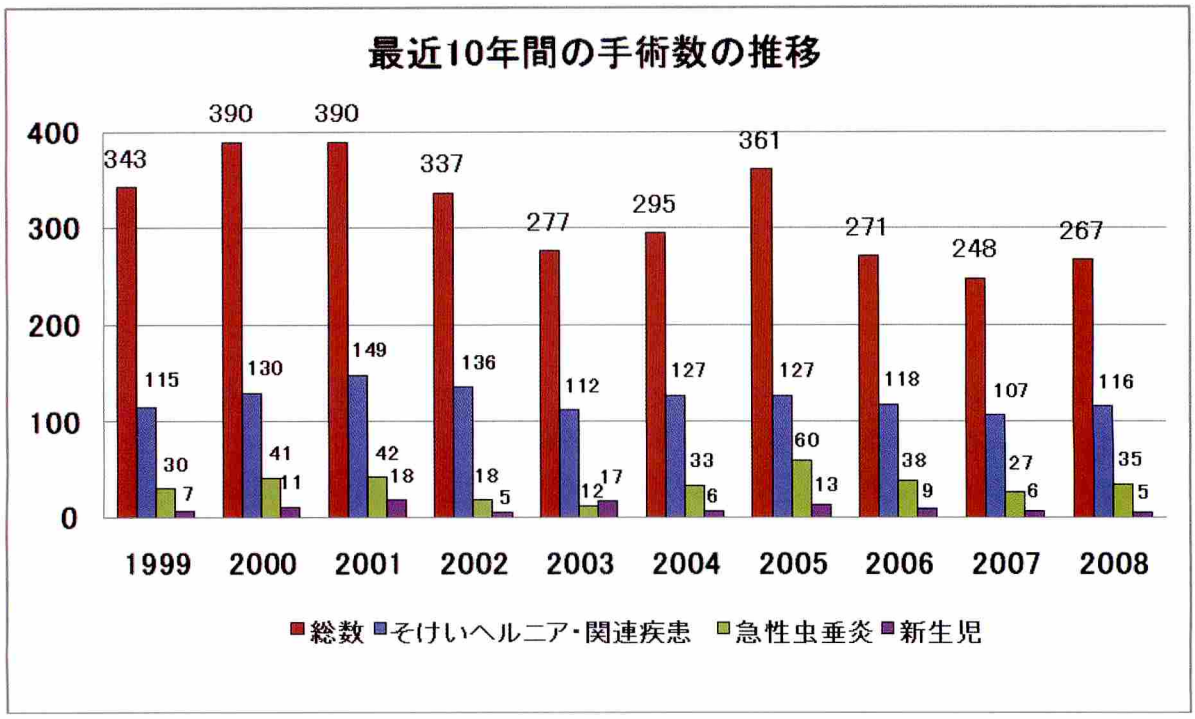
☆疾患の詳細については、以下の日本小児外科学会ウェブサイトをご参照ください。
http://www.jsps.gr.jp/05_disease/index.htm

■ 診療実績

最近の平均外来受診数：250～300例/月

平均入院数：350～400例/年

手術数：250～300例/年



☆2006年4月より、急性虫垂炎は全例腹腔鏡下手術を行っており早期退院を可能にしました。
また、重症心身障害児の誤嚥・胃食道逆流症に対する外科治療を積極的に導入しています。

■ 診療スタッフ

部長　中村　潤　（4月～　神山隆道）

科長　佐野信行

■ 外来診療予定

	月	火	水	木	金
午前（9：00～）	［手　術］	佐　野	［手　術］	中　村	［手　術］
午後（13：30～）	中村・佐野 （14:30～）	［検　査］	中　村	［検　査］	佐　野

■ 外来紹介時にご留意いただきたいこと

- 対象疾患は前掲の一覧表をご参照ください。
- 新患日の指定はありませんが、月曜日は長い手術を入れるため原則として急患のみの対応としています。
  火～金曜日（火・木：午前、水・金：午後）にご紹介いただければ幸いに存じます。
- なお、急患を除き原則として診察日時は予約制です。地域医療連携室を通して予約をお取りください。

■ おわりに

少子化、医師不足がクローズアップされている現在においても、小児外科医療は次代を担うこども達のために必要不可欠です。不採算部門との指摘もありますが、地域医療に貢献できるよう私どもは日々研鑽を積んでいく所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

〈後列左：佐野　信行 医師　後列右：中村　潤 医師〉

診療科紹介

未熟児新生児科

未熟児新生児科
本田義信

磐城共立病院のNICU（新生児集中治療室）は浜通りの周産期医療の拠点であり地域周産期センターに指定されている。保健認可のNICUが６床、安定した児を収容するGCU（growing care unit）が14床で、20床のベッド数をもつ。年間入院数は120-160人で、いわき地区周辺の出生数は年間3000-4000であるから、出生児の3-5％（20から30人に一人）がNICU管理となり意外に身近な医療である。新生児搬送が約1/3を占める。産婦人科の先生の母体搬送の理解が進み、現在は2000g未満、35週未満の新生児搬送は皆無であり、いわき市の周産期医療体制は全国的にも優れていると言える。

1500g未満の極低出生体重児は年間25-35人の入院があり、うち1000g未満の超低出生体重児は10人前後で生存率は約8-９割である。小児外科疾患にも対応し、小児内科も専門医が充実している。

NICUでは重症児が長期入院し常に満床状態になり、妊婦受け入れ拒否の主因になると、マスコミで報道されているが、当科では約10年前より長期入院児の在宅管理に取り組み、在宅人工呼吸管理２例（準備中２例）、在宅nasal CPAP４例（準備中１例）である。これはCE管理室と小児内科の訪問医療の協力のたまものである。またCE管理室で考案し発表した在宅nasal CPAPのシステムは、今や全国的な在宅nasal CPAPのモデルとなっている。

課題は小児循環器専門医が常駐していないことで、新生児早期に重症化する先天性心疾患や診断未定の重症化した先天性心疾患児が外来受診した時の初期診断治療は私たちが行っている。緊急の手術を必要とする症例は郡山や、ヘリで東京・長野・横浜に搬送している。

NICUのベッドは常に満床状態であり、常時７-８人の重症新生児を管理し、新入院がある度に、集中管理が必要であっても重症度が低い児を、夜勤は10数人を一人で看護するGCUに移り管理することになり、危険な綱渡り状態が続き、看護師の負担は重い。時には受け入れ不能になり年間10名前後の母体搬送を日立市・水戸市・郡山市・須賀川市・福島市のNICUにお願いしており、中には半年近く面会に通わなければならない家族もおり、市内の産婦人科の先生やいわき市民にご迷惑をおかけしている。ただし妊婦の受け入れ先は全例新生児科医が責任を持って探し紹介している。

いわきの妊婦・新生児を地元で治療するためには現在６床のNICUを９床に増床することが必要不可欠で、厚生労働省も全国に2000あるNICUベッド数を3000に増やす方針を打ち出し、文部科学省もNICUが設置されていない大学医学部全てにNICUを設置する勧告を出している。NICU増床は社会的要請になりつつある。

当院での本格的な新生児医療の端緒は昭和60年の前任の近内育夫先生（現、小名浜開業）の赴任からである。当時は小児病棟の一角を新生児集中治療の部屋としていたと聞く。医師と看護師の『全ての赤ちゃんに、優しい治療を』という思いが平成２年のセンター開設につながった。その看護師たちの熱いスピリットは現在も受け継がれている。新生児は状態が急変しやすく２４時間、厳密な監視を行い、変化に応じた迅速な対応が生死を分ける。それを数人の医師で行う事は不可能であり、看護師の一早い発見と報告で命が助かった赤ちゃんは数多くいる。

NICUは機械的で非人間的なスペースと言うイメージがあるかもしれない。しかし、NICUでの治療の中心はファミリーケア、デベロップメンタルケアになって来ている。ファミリーケアとは幸せであるはずのお産が、母子分離や赤ちゃんの命の危険にされされる不安から、危機的な経験になるのを、

医療者ができるだけ両親と赤ちゃんの関係を深められる様に周囲から暖かく見守り家族の絆を強くする手助けをする事である。

デベロップメンタルケアは集中治療によりストレスの高いNICUの環境をできるだけ子宮内の環境に近づけるために、子宮内と同じ体勢を保ち、照明を暗くし騒音も減らし、心身ともに安定できストレスの少ない環境を赤ちゃんに提供するものである。これによって発達へ好影響を与えるとされ、私たちも実感している。

当院のNICUには全国で唯一、母子同室の部屋が併設してある。この部屋を活用し家族がいつでも赤ちゃんと一緒にいれるNICUを目指し、母乳育児支援やファミリーケアに取り組んでいる。これらの取り組みは、国内では一番という評価も受け、原稿依頼・シンポジスト依頼も来ている。保育器に入っている児を保育器外で母の肌の上で直接肌を合わせ、抱っこするカンガルーケアも11年前から県内で最も早く導入している。

日本の新生児医療成績は世界一である。当科での治療成績は全国平均を上回り、いわきで生まれた赤ちゃんに最高の治療を施せる様に日々研鑽している。

医師は新生児医療専門医が１名、３-４年目の一般小児科の医師１名を福島医大より１年交代で応援を頂き２名で診療している。同規模のNICUでは全国で最も少ない医師数である。重症児の出生は予測がつかず、生直後に１分１秒を争う迅速で適切な対応ができなければ、児と家族に一生の負担を強いる可能性がある。重症児の対応は専門医以外は困難で24時間、365日、常時対応しなければならず医師のQOLの低さは課題の一つである。

〈前列左から２番目：川村　哲夫 医師　前列中央：本田　義信 医師〉

新任医師紹介

循環器科：白戸　崇 医師

１月より、循環器科で勤務しております。
出身は秋田県秋田市で、平成14年東北大学卒です。
地域医療に貢献できるよう尽力したいと存じます。
今後とも宜しくお願い申し上げます。

院内紹介

平成21年２月12日、院内講堂において、「病院内における暴言暴力対応について」と題した講演会が開催されました。講師として、いわき中央警察署の２名の刑事さんが実演を交えながらさまざまな場面における対応策についてお話され、350名を超える職員（地域の連携登録医療施設から参加された医師や看護師の方もいらっしゃいました。）が熱心に聞き入りました。

講演の様子

さすまたを使っての実技指導の様子

【登録医の皆様へ】

今後もこのような講演会等を開催する機会がございます。ご連絡を送付させていただきますので、ご都合がよろしい場合は奮ってご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。

地域医療連携室業務時間
月～金　8：30～17：15

〒973-8555 福島県いわき市内郷御厩町久世原16番地 いわき市立総合磐城共立病院